

## 一人ひとりの自立をめざした学級づくり

### I 主題設定の理由

社会生活の激しい変化の中で、子どもの生活様式や生活の意識も大きく変わってきた。現代の子どもたちは、自己の利害や損得に関わるものには敏感に反応するが、人とのつながり、思いやりの心という面では希薄になってきているように感じる。いわゆる自己中心的な考え方が強く、自分さえよければよいといった風潮があり、他者を省みない傾向がある。様々な学習や生活の場面でコミュニケーションの能力が課題としてあげられることが多いのはそのような現状があるからであろう。そして、「学級崩壊」「いじめ」「不登校」など様々な大きな課題にもつながっている。

学校での「学び」の基本は、学級集団にある。一人ひとりの子どもが仲間として、お互いに認められ、楽しく生活していけるような「居心地の良い集団」づくりが大事である。居心地のよい集団、すなわち「一人ひとりが認められる学級」にしていくためには、学級の一員としての意識を一人ひとりに持たせたり、自分を取り巻く友だちとの関わりに目を向けさせたり、また学級集団をよりよくしていこうとする気持ちを育てていったりしなくてはならない。

そこで、本部会では、「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」を主題とし、子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるための手だてについて研究をし、日々の実践に生かしていきたいと考えた。

### II 研究の内容

#### 1 研究の方法

- (1) 各個人の取り組みや実践を発表し、研究討議する。

レポートの例：

特別活動の充実、学級会の進め方、班長指導、朝の会・帰りの会の進め方、係活動、エンカウンター、課題解決の手だてなど学年の発達段階や各クラスの実態に応じた「自立をめざした学級づくりの手だて」、について。

- (2) 講師を招き、「学級づくり」についての研究を深める学習会を行う。
- (3) 授業研究を通して「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」について学習を深める。

#### 2 研究の具体的内容

##### (1) 第1回研究会

今年度の研究の方向性の確認・・・研究テーマ、研究方法について

##### (2) 第2回研究会

年間計画について

##### (3) 第3回研究会 学習会「子どもの権利条約について」及び 実践発表Ⅰ

- ・入学はじめの当番活動や係活動を通しての取り組み（1年）
- ・めあての持たせ方と取り組みについて（5年）

##### (4) 第4回研究会 実践発表Ⅱ

- ・あいさつがしっかりできるクラスを目指して（5年）
- ・「話し合い活動」による、よりよい学級集団を目指して（5年）
- ・児童会活動に関わって委員会や縦割り活動などから自治的活動を考える。  
(全校)

##### (5) 第5回研究会 学習会 「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」

～まず、子どもを知ろう・小さな心遣いの積み重ねが

人間関係を作っていく～

～講師：太田充先生（三富小学校校長）～

### 実践発表Ⅲ

- ・トラブルを自分たちで解決していく方法を探る、またお楽しみゲーム大会の取り組みについて（3年）
- ・係活動・当番活動を通して、自分たちで考え実行する力を育てる。（2年）
- (6) 第6回研究会 授業研究①
  - ・自己紹介カードを使って、友だちの良さを発見するゲームを取り入れた学級活動の実践「私はわたしよ」（3年）
- (7) 第7回研究会 実践発表Ⅳ
  - ・「一人ひとりの自立をめざした学級をつくる」ためにつけたい力を考えながらの実践（1年）
  - ・クラスの一員として係や当番を意欲的に取り組む子どもを目指して（1年）
  - ・学習規律の立て直しをしていく過程での学級集団作り（2年）
- (8) 第8回研究会 実践発表Ⅴ
  - ・目標作りから意識した学級作り，班を生かした取り組み（4年）
  - ・友だちを思いやり認め合う学級作り（2年）
- (9) 第9回研究会 授業研究②
  - ・ソーシャルスキルを生かした学級活動
  - 『見る目，聞く耳，話す勇気』で話し合いを進めよう」（4年）
- (10) 第10回研究会 実践発表Ⅵ
  - ・学級会や誕生会，クラスみんなで遊ぶ日などの取り組み（1年）
  - ・6の2憲法，卒業プロジェクトなど集団を高める仲間づくり（6年）
  - ・班や係活動，グループエンカウターの実践（5年）

### Ⅲ 成果と課題

#### 1 成果

- ・居心地の良い集団作り，人との付き合い方を学んでいく場面作り，よりよい集団を築こうとする態度の育成に向けての各校の実践レポートは，大変役に立ち，すぐに自校の実践に生かせる部分が多かった。
- ・先生方の実践を見せてもらい，すぐ実践してみたいことが実践できるというのがこの会の良さだと思うので，これからも全先生方に実践報告という形をしていって欲しい。
- ・先生方の日々の活動や，様々なソーシャルスキルをつけるための実践などから，自分の学級に合わせた活動・実践に生かすことができた。
- ・夏季学習会では，2年連続太田先生のお話を聞いて大変良い勉強ができた。また，より良い人間関係作りのための様々な手だてを提案していただき有り難かった。
- ・廣瀬教諭と丸山教諭の研究授業は，よりよい学級集団を作るために個々に目を向け，実態を的確に把握し，個々を認め合うという自治的活動の基礎となる部分で共通したものがあつた。話し合い活動や認め合い活動は，この部会を今後進めていく上で重要なことであると思う。
- ・二人の先生に授業していただき，話し合いの仕方や一人ひとりを認め合う学級作りについてなどが学べてとても良かった。

#### 2 課題

- ・昨年度の反省にもあつたが，子どもたち自身がクラスの問題や改善すべき点をどう見つけ，どのような過程で解決していくかという視点をさらに強調しても良いのではないか。
- ・様々な手だてをつくしてもうまくいかなかった事例もみんなで考え合うことで，学べることがたくさんあると思う。
- ・毎年授業をしていただく先生の指導案検討をしないので，来年はその時間を取りたい。
- ・全体で研究討議を行ったことで低学年の実践も高学年の実践も学ぶことができたが，一つ一つを討議する時間があまり取れなかったように思う。
- ・県教研に参加してみて，他支部では，クラスの子どもたちの変容を継続的に見取っている研究があつた。単発の発言ではなく，継続してどうなったかについて，報告する機会があつても良いのではないかと思った。
- ・計画では，低学年・高学年のグループごとに話し合いをする予定で進めたが，発表者の人数が昨年より少し減ったことや，学年でうまく分けられなかったことがあつた。

（部長 植原恵子）